

令和2年度 ボランティア活動報告書

なぎさの和



社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑

ご挨拶



地域に開かれた施設として江戸川区の無償貸与の恩恵の下に開設した当苑は、この地で40年を迎えることができました。高齢者福祉の地域拠点を目指して、ネットワーク作りを推進し、地域とともに歩む姿勢を大切に取り組んでおります。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、入居者にとっても不安な日々を過ごしながら、長期間にわたる感染予防対応を強いられる事態となりました。また、法人としても創設者である平方前理事長・施設長退任による大きな節目を迎え、長年平方前理事長の熱い想いで築き上げてきた当法人の理念を継承し、職員とともに新たなスタートを迎えた年度となりました。

これまでも、当苑には小さなお子様から高齢者まで、幅の広い方々とのふれあいも多く、ボランティア活動においては、年間延べ5000名を超える方々にご支援を頂いてまいりました。入居者をはじめ、在宅サービスご利用の皆様にとりましても、潤いとやさしさあふれる時間をお過ごしいただくことができています。その貴重なひと時が、コロナ禍において途絶えてしまった現状について、入居者、サービス利用者にとって、大変寂しい時間を過ごしておられるのではないかと感じております。

そのようなコロナ禍でもできる取り組み、あきらめるのではなく、どのようにすれば取り組むことができるのか、など前向きな検討を重ねながら、ボランティアの皆様のご協力の下「オンラインボランティア」という、新たな取り組みにつなげることができました。インターネット環境を活用し、直接対面しなくても、画面上で会話のキャッチボールができること、画面の向こうでダンスや手品を披露してくださるなど、新たなボランティア活動の一つとして、幅が広がりました。

また、ボランティアの皆さん自身が大変な中であるにもかかわらず、入居者や職員へのねぎらいの言葉、そして手作りのマスクや心温まるお便りの数々をいただき、我がことのように当苑を考えていただけていることに、ボランティアの皆様をはじめ、地域の方々に支えられている実感をより強く持つことができました。これまで通り安心して触れ合えるボランティア活動ができる環境となり、入居者の皆様の笑顔が少しでも早く見られるように願いながら、お一人お一人のご奉仕活動に感謝を込めて、令和2年度のボランティア活動報告書をまとめさせていただきました。

人と人との支えあい、そして多くのご縁を大切にした施設であり続けられるよう職員一同、邁進してまいります。

令和3年9月1日

社会福祉法人東京栄社会 **なぎさ和楽苑**

苑 長 池田 めぐみ

令和2年度

なぎさ和楽苑の状況

令和2年度のなぎさ和楽苑の取り組みには常に感染症予防対策が講じられていました。3密回避の徹底、職員のフロア間移動の制限、飛沫感染防止のための席の配置や合唱等のレクリエーションの自粛、外出プログラムの中止等々、考える感染症予防対策を実施してきました。年度を通しての取り組みを報告いたします。

令和2年

2月26日 ● 感染症拡大に伴い、入居者ご家族の面会制限開始
ボランティア受け入れ中止



4月15日 ● 苑内の情報をボランティアの皆様にお伝えするため

「なぎさボランティア新聞」発行

- ・入居者の皆様の様子
- ・感染症予防対策の説明
- ・池田苑長、新ボランティア担当、新人職員の紹介 等々



4月19日 ● 例年多くのボランティアの皆様にご活動していただいていた

「家族会総会と春の昼食会」中止

5月15日 ● **WEB面会開始**

モバイルアプリ「LINE」のビデオ通話機能を活用した面会方法。事前予約制で職員がタブレット端末を居室に持参し、入居者のご家族が通話する



6月8日 ● **家族面会一部再開**
ボランティアの受け入れを一部再開

【洗濯物たたみ】

特別養護老人ホームの各フロアに上がらない活動のみ再開



6月15日 ● **なぎさボランティア新聞 part2発行**
・地域の皆様からいただいた物へのお礼
・苑周辺の植木剪定ボランティア
・オンラインボランティア 等々

7月6日 ● **ボランティア受け入れの活動内容拡大**



【フロア援助】 【清掃活動】 【園芸活動】 【シーツ交換】 【縫い物】
※入居者と近い距離で関わらない活動のみ再開

9月20日 ● **規模を縮小し「長寿を祝う集い」を開催**
例年開催していた秋まつりは中止とし、長寿祝賀式のみ開催

11月27日 ● 感染症拡大によりご家族の面会制限、
ボランティアの受け入れ一律中止

12月31日 ● **1家族1回のみ窓越し面会実施**
1階にて入居者のご家族に窓越しで面会をしていただく方法



【その他】

- 感染症予防対策から「**新ボランティア様式**」を作成。
- ①マスク着用
 - ②活動前の検温
 - ③活動時間の制限(1時間)
 - ④ボランティアセンターの使用法
 - ⑤入居者様との接触禁止
 - ⑥エレベーター使用時の注意点

今後の展望

高齢・虚弱な入居者様が新型コロナウイルスに罹患した際のリスクを考え、ご家族との面会やボランティアの皆様への受け入れ再開は慎重に議論し調整しております。入居者様の健康が最優先事項ですが、考える感染症予防対策を講じ、地域の皆様との繋がりを持ち続けることができるよう尽力してまいります。

新たな取り組み ～オンラインボランティア～

感染症予防対策から苑内でのボランティアプログラムの実施が難しくなり、新たなプログラムとして始まったのが「オンラインボランティア」です。ビデオ電話ツールを使用し、入居者の皆様とボランティアの皆さんを繋ぐ活動になります。ご自宅からボランティアをすることができ、遠方に住んでいる方や当苑まで来ることが難しい方でも活動することが可能です。



東京新聞にも掲載

ボランティア Report

オンライン特技披露 ボランティア

ビデオ電話ツールZoomを使用し、入居者様にボランティアが特技を披露するプログラム。幼稚園児から70代まで幅広い世代の方が活動していただきました。国外(インドネシア)から活動して下さった方もいます。



箏演奏

すてきね～

ボランティア Report

オンライン 傾聴ボランティア

ビデオ電話ツールZoomを使用し、入居者様とボランティアが自由にお話をするプログラム。昔の写真を画面上に映し、懐かしんで話をする【回想法】を導入して実施しました。



懐かしい写真がいっぱい

【回想法】に使用した画像。昔の思い出が蘇ってきます。

インドネシアから



ピアノ演奏



メキシカンダンス



かわいいわねえ～



チアダンス

エクササイズ



スゴイ!!



高校生によるマジック

今後の展望

当初はオンラインというツールが入居者様、ボランティア双方にニーズがあるのか不安でしたが、参加された方々から「画面に大きく映っていてわかりやすい!」「直接会うのが楽しみ!」「画面越しであれば過度に緊張せず交流できる」などといったご意見を多数いただき、「直接会えなくてもオンラインで心と心を通じ合わせることができる!」という手ごたえを得ることができました。

また、入居者様の中にはオンライン上でも「人と会う」という意識から、オシャレや化粧をするといった身なりを整える方もいらっしゃり、生活にハリが生まれています。

まだまだ改善の余地がある取り組みですが、より内容、質ともに充実したボランティアプログラムに進化できるよう努めてまいります。

少しでも興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

9月20日

長寿を祝う集い

当苑の一大行事である「長寿を祝う秋まつり」も感染症予防対策の観点からお祭りは行わず、お祝いの式典とオンラインでのアトラクションのみとし、名称も「長寿を祝う集い」に変更し開催いたしました。

式典では、日頃から大変お世話になっているボランティア団体「糸の会」様が作ってくださった横断幕と看板が飾られ、また一人ひとりの入居者様へボランティア団体「たんぽぽ」様が作ってくださった手作りの御守りと地域住民の方々が送ってくださった折り紙でできた胸章も贈呈されました。

それぞれの手作り作品には「少しでも敬老の日をお祝いし盛り上げたい」「元気に長生きしてほしい」というボランティアの皆様のご思いが込められています。

アトラクションでは、「新田太鼓」様と「NPO法人ことのはサポート」様にご協力いただきました。事前に撮影した和太鼓と手話歌それぞれの動画を、当日全館オンラインで繋ぎ配信しました。上映後は大迫力の演目と素敵なメッセージに感動して涙を流される入居者様もいらっしゃり、各場所から大きな拍手が送られ、大盛況の行事となりました。



平方顧問からの挨拶



鈴木理事長からの挨拶



ことのはサポート様による手話歌



敬老の日のお祝いメッセージをいただきました



おめでとうございます!



新田太鼓様による和太鼓演奏



すごい迫力!



たんぽぽ様による手づくりお守り

敬老の日のお祝いメッセージをいただきました



三密に注意しての活動



ボランティア Report

イベント期間:10月26日～11月21日

介護の日 イベント開催!

平成20年より、11月11日が「介護の日」と定められ、当苑でも日頃介護や福祉に関わりの少ない方々に、少しでも介護について関心を持ってもらう機会になるよう、平成21年からさまざまなイベントを実施しております。

令和2年度は「Social Connection 心とこころ♥をつなげよう」をテーマとし、コロナ禍により希薄になりがちな“つながり”を意識した情報発信型のイベントを10月26日～11月21日の期間実施いたしました。

介護の日オリジナルソング作成

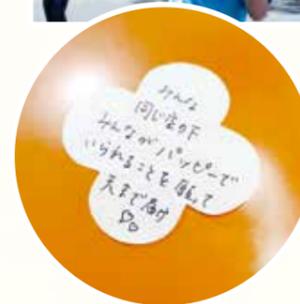
日頃から活動していただいているボランティアのShin-Chanさんに依頼し、オリジナルソングを作成していただきました。曲のイメージや歌詞は職員から募った合作となります。曲名は「同じ空の下～大切なあなたへ～」。11月8日には感染症予防対策を講じてお披露目コンサートも開催しました。



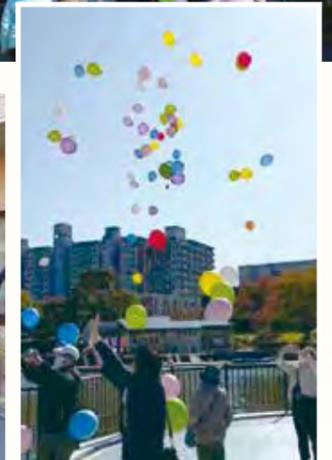
コンサートは生中継!

想いを込めたバルーンリリース

介護の日にちなんで11月11日11時11分に300個の風船を飛ばしました。風船一つひとつに介護への想いや願いが込められています。また天候にも恵まれ、ボランティアの方々にもご参加いただくことができ、大成功のイベントとなりました。



大空に高く飛んでいけ～!



地域住民向けスマホ教室

幅広い世代の方に介護の日の情報を届けようとスマホ教室を開催しました。21名の方の参加があり、SNSの使用方法等を中心にお伝えしました。



なんでか聞いてくださいね

オンラインボランティア講座

【学び舎なぎさ】



3人にちは～!



ビデオ電話ツールZoomを使用し当苑の新たな取り組みである「オンラインボランティアの可能性」について地域のボランティアの方5名と意見交換をしました。講座後に早速オンラインボランティアにチャレンジされている方もいらっしゃいます!

記念セミナー配信

メイン企画として「コロナ禍にみる、デンマークと日本の現状とこれから」と題した福祉セミナーの動画を配信。平成27年より当法人の職員海外研修(北欧研修)でお世話になっている方々にご協力をいただき、「世界一幸せな国」といわれる社会福祉国家デンマークにおけるコロナ禍の現状を知ることから、日本人が取り組めることは何かを考えました。



撮影の様子



パネラー

- バンクミケルセン記念財団 理事長 千葉忠夫氏(写真左下)
- ノーフェンスホイスコーレ教員 短期研修部代表 モモヨ・タチエダ・ヤーンセン氏(写真左下)
- 岩手県 社会福祉法人つくし会 理事長 熊谷茂氏(写真左上)
- 社会福祉法人東京栄和会 理事長 鈴木信男(写真右下)

進行

- 社会福祉法人東京栄和会 なぎさ楽苑 苑長 池田めぐみ(写真右上)

その他にも...

- YouTube ▶ ご自宅でする介護技術や、職員・入居者インタビュー等を配信しました。
- Instagram ▶ 介護の日の各企画のPRを行い、幅広い世代の方々に周知していただけるような配信をしました。

ボランティアの
皆様から届いた



毎週当然のように和楽苑に出かけて活動できた日々、こんな私たちでも少しでも人の役に立てるんだ...という喜びを感じながら活動しておりました。でも、その当たり前であった活動ができなくなってしまった今、私たちはまた別の感情を抱いております。それは、「活動を通して私たち自身もまた、たくさんの喜びと楽しみ、そして癒しをいただいていたのだ!!」ということ。改めて気づかされたのです。活動が再開できたときには今まで以上に利用者の皆さんに寄り添い、皆さんと共に楽しい時間が過ごせるよう心をこめて活動させていってほしいと思っています。

コロナ禍で人との交流がなくなった今、改めてボランティアの仲間であられる幸せを感じています。

和楽苑でボランティアできたことがとても大切な貴重な時間だったと感じます。そんな場所、機会を待っています。

これからも地域の方々の困ったとき、悩んだときに相談にのっていただける、心の拠り所になっていただけるなごさし和楽苑であってほしいです

以前、先輩のボランティアに言われた「ボランティアはしてあげているんじゃない、させてもらっているんだよ」という言葉が今回のことで身に染みて納得できました。

高齢化社会の駆け込み寺 困ったときに、なごさし和楽苑に行けば、命が救われるような、窓口を設け、世間に知らしめてほしい。

ワクチンが施設の職員、利用者、我々高齢者に行き渡れば、何かしらのボランティア活動ができるのではないかと期待しています。時間だけは十分あるのに、力になれず、申し訳ありません。収束したら笑顔をお届けに行きます。コロナに負けず頑張りましょう!

ボランティア側もコロナ流行以前に比べ時間的に余裕がある方が増えたかもしれません。またボランティアをやってみようとする方も増えたと思います。ぜひボランティア側としてできることがあればいろいろとやってみたいと思うので、この状況下でできる活動やボランティアの募集を継続いただきたいと思います。

職員の皆様が健康でコロナに負けずに施設を、施設の入居者の方々を守ってくださるよう祈っています。心から皆様を応援しています。頑張っている皆様へせめてエールを送りたく、お手紙を書かせていただきました。

いつでもオープンで明るく迎えていただける、貴苑と出会えたことを感謝しています。

感染症予防対策から直接お会いする機会が少なくなってしまったボランティアの皆様から、本当に多くのあたたかい言葉をいただきました。手紙や電話、メール等といったさまざまなツールを通して、入居者様を心配する声やボランティア活動再開を望む声、私たち職員を労う声などが多数届きました。ご紹介いたします。

入居者様にインタビューしました!

特別養護老人ホーム 入居者・江原 津弥子さん



- 職員 ボランティアの皆さんとお会いすることができない期間が長く続いていますね。
- 江原さん 私は人と話をするのが好きだから少し寂しいですね。あと音楽にふれる機会も減ってしまいました。コンサートもボランティアさんですよね?
- 職員 そうです。コンサートを開催してくださっていた方々は、皆さんボランティアの方たちです。
- 江原さん 昔はよく音楽会にも行き、聴いて歌ってました。ハーモニカも弾いていましたよ。なつかしいな〜。
- 職員 ボランティアの方でもハーモニカを演奏して下さる方がいます。一緒に演奏したいですね。
- 江原さん そうですね。他にもやりたいことがたくさんあります。料理もしたいし、お買い物にも行きたいし、歌も習いたいし…。昔はよくやってました。
- 職員 やりたいことがたくさんあるのは良いことですね。今でもできることはたくさんありそうですね。
- 江原さん でも一番は人のために何かをしたいと思います。私は保健婦として働いていたから人の役に立ちたいんです。
- 職員 「人のために」という想いはボランティアの皆様と一緒にですね。
- 江原さん そうです。なので、ボランティアの皆さんは素晴らしいと思います。できる限り長く気の合う仲間と楽しみながら活動してほしいと思います。



都市型軽費老人ホームJOY なぎざ 入居者・荒井 稔さん



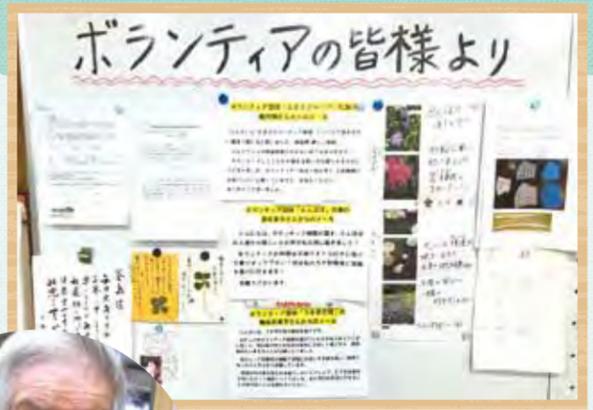
- 職員 今年は感染症の影響から、これまでの日常が一変してしまいましたね。
- 荒井さん そうだね。私は昔から人と話すのが好きだったから悲しい。娘たちとも定期的に会うのが難しくなりました。こればかりはしょうがないだけだね。
- 職員 しょうがないと分かっているけどストレスは溜まりますよね。荒井さんはどのように気分転換されているのですか?
- 荒井さん 自分の部屋で歌をうたったり、たまにある外出を一杯楽しんだりかな。もちろん感染症予防対策をしてね!
- 職員 コロナ禍前はよくカラオケや、当苑の地域活動にも積極的に参加して下さっていましたよね。
- 荒井さん カラオケは趣味だから、早く人前で歌いたいよ。でもオンラインで繋いで若者と歌ったのは楽しかったな。
- 職員 アレクシオンファーマ合同会社の社員の皆さんとの企画ですね!
- 荒井さん 直接会うことはできないけど、自分の歌が作品(動画)になるのはうれしかった。最近の若者はすごいね! 何でもできる!
- 職員 新しい交流の形かもしれせんね。でも直接会うのが一番良いですね。
- 荒井さん 本当にそう思います。なぎカフェ(コミュニティカフェ)やなぎさキッチン(地域食堂)またやりたいね。昔板前をやっていたからああいうのが好きなんだ。
- 職員 ボランティアの皆さんを含め、地域の方々と会えるのが楽しみです。
- 荒井さん 心待ちにしています。それまでは、最近ベランダに来るようになったスズメと、仲良く遊んでようと思います(笑)。



ボランティアの皆様からの ～お手紙～

入居様と職員宛てにたくさんのお手紙をいただきました。手紙には、コロナ禍での入居様様の日々の生活を気に掛けてくださる優しい言葉や私たち職員を労う言葉、またボランティア活動再開を心待ちにしている想いなどが記されており、あたたかい気持ちになるものばかりでした。本当にありがとうございます。

お手紙を受け取った入居様様のうれしそうなお表情をご紹介します！



ボランティアの皆様から

贈り物

Present for you

たくさんのボランティアの皆様から想いのこもった
素敵な贈り物をいただきました。
ボランティアの皆様も大変な状況の中にもかかわらず、
当苑を気にかけて、このような形でご支援いただいたこと、
心より感謝申し上げます。

手作り マスク

感染症予防対策に必要不可欠なマスク。
近隣の地域住民、一般企業、学生等々、
幅広い地域の方から1000枚を超える
マスクとマスクケースをいただきました。



写真立て・ 写真ケース

少しでも施設内が明るくなればと、
手作りの写真立て、写真ケースを届
けていただきました。ひとつひとつ、
中には幸せを呼ぶ四つ葉のクロー
バーやボランティアの方からのメッ
セージカードが入っ
ています！



装飾品の 数々

「入居者の皆さんに、見て元気になってい
ただければ」と、幼稚園児から80代の方
まで幅広い世代の方が素敵な絵や切り絵と
いった装飾品を届けてくださいました。



きれいねえ



手作り ガウン

感染症対策をしながらケアにあたる
職員のためにボランティア団体系の
会様が手作りの全身を保護するガウ
ンを作成していただきました！



コロナ禍での

それぞれのボランティア活動

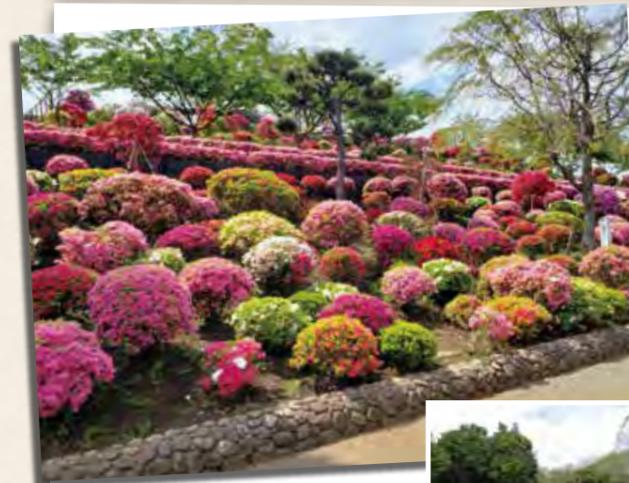
感染症予防対策から苑内でのボランティア活動ができない中、多くのボランティアの方々から
「何かできることはないか?」「少しでも力になれば」とのお声をいただきました。
そこで実現したのが「植林剪定ボランティア」と「写真撮影ボランティア」です。

植林剪定 ボランティア



ボランティアの皆様は、
苑周辺の生い茂っていた
植林を剪定していただく活
動です。3密には十分に注
意をし活動していただきま
した。

この活動は、コロナ禍
により直接会う機会が少
なくなったボランティア同
士の横の繋がりを創出す
るという意味でも、非常
に重要な活動となりました。



写真撮影 ボランティア



外出する機会が減ってし
まった入居者の皆さんのた
めに、ボランティアの方々
が季節の草花や心がほっ
こりする写真を撮影し、送
るといった活動です。

苑外の様子を伝えてくだ
さる大切なツールであり、
「次はどんな写真が届くの
かしら♪」と入居者様から
も大好評です！



新型コロナウイルス

感染予防に向けて

当苑では、新型コロナウイルス感染防止に向けてさまざまな対策を講じています。苑内で取り組んでいる感染症予防対策についてご紹介します。

パーティション



1階の地域交流スペースには各テーブルにパーティションを設置しています。

消毒



苑内の共有部分と入り口のマットレスは定期的に消毒をしています。

リモート会議



3密防止、接触する機会を減らすことを目的に、オンラインを利用した会議を導入しました。

座席配置



ご利用者様(デイサービス)の座席は、飛沫感染防止の観点から対面式に座らないように配置しています。

検温の徹底



苑内に出入りする方全員に、検温を実施しています。37.5度以上の方は苑内に入ることはできません。

行事の工夫



オンライン旅行

行事の開催方法も変わりました。これまで毎年、10月1日に西葛西駅前でやってきた赤い羽根共同募金活動は、街頭では行わず、苑内での活動に制限し、各セクションにて実施いたしました。また、外出する機会が減少したため、少しでも旅行気分を味わっていただくために「オンライン旅行」というレクリエーションを実施しました。行き先は長野県にある、「一度お参りすれば極楽往生できる」と言われる善光寺！旅のしおりやお土産も準備し、大好評でした。

赤い羽根共同募金活動

なぎさ和楽苑 公式SNSのご紹介

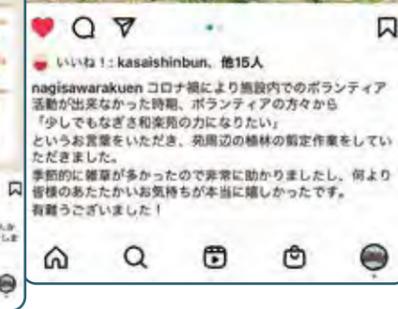
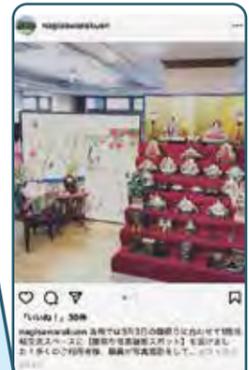
当苑では令和2年度、新たに公式SNSを開設いたしました。定期的に最新の情報を地域の皆様に発信してまいります。ぜひご覧ください。

Instagram

公式アカウント
@nagisawarakuen

公式Instagramアカウントを開設し、苑内の行事やボランティアの皆様様の活動報告、求人情報等を投稿しております。

こちらからフォローを
お願いします



YouTube

公式YouTubeチャンネルを開設し、「ご自宅でもできる介護技術講座」や「特別養護老人ホーム入居者へのインタビュー」「若手職員が語る介護の仕事の魅力」「なぎさ和楽苑江戸川区開設40周年記念動画」等を配信しております。

チャンネル登録は
こちらからどうぞ!



ボランティア活動実績

敬称略 (延べ人数)

氏名	内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
阿部 仁	あしたば						1		1		1	1	1	5
アレクシオンファーマ	イベント			5			18							23
足立 静子	あしたば			1	1	1		1	1	1	1			7
糸の会	繕い物	6	6	3	9	6	6	3	6	6	6	6	6	69
笈沼 和枝	行事								1					1
大橋 はるえ	手作り作品				1									1
岡本 珠枝	洗濯物			2	4	4	5	3	4					22
小野 一己	行事					1			1					2
㈱平安祭典	行事								2					2
工藤 恵美	洗濯物								3					3
小池 市太郎	写真						1		1					2
小坂 成子	演奏										3			3
ことのはサポート	行事						22							22
篠原 拓生	落語						1			1			1	3
Shin-Chan	コンサート								4					4
新田太鼓	行事						13							13
清新第一中学校	余暇支援							2	2					4
芹川 令子	あしたば			1	1	1	1			1	1		1	7
谷口 厚子	フロア4				4	3	4	4	4					19
たんぼぼ	行事・フロア			19	4	44	11	21	37			2		138
天理教江戸川支部	シーツ					9	6		4					19
なぎさグループ														
・佐々木 和子	シーツ				2	3	3	2	2					12
・島田 光枝	シーツ・行事				2	3	2	3	3					13
・横内 博	くつろぎ・行事				3	4	3	2	3					15
・日比野 由香	シーツ・行事				1		1		1					3
夏のリモートボランティア	行事					9	63							72
長谷川 寛子	フロア4				3	4	5	4	4					20
林 勝江	フロア3				2	3	2	4	1					12
平澤 紀美子	シーツ					1	1		1					3
南出 秀子	洗濯物	1		3	4	3	4	3	4					22
三宅 松子	洗濯物			4	5	4	4							17
本宮 正邦	園芸				2		2	7	4					15
森畑 滋斗	行事								1					1
山岸 義也	あしたば			1	1	1		1			1			5
山崎 小百合	傾聴					1	1		1	1				4
山下 順子	園芸				4	2								6
山中 信子	あしたば			1	1	1	1	1	1	1	1		1	9

氏名	内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
(有)B&G	行事									2				2
立正佼成会	清掃・行事	2	2										2	6
和洋女子大学「わよ♡ボラ」	手作り作品												100	100
合計		9	8	40	54	108	181	61	99	11	14	9	112	706

介護サポーター

氏名	内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設系														
赤澤 清子	フロア援助				3	4	4	4	4					19
梅原 光子	シーツ交換				1	2		2	2					7
大塚 育子	フロア援助				4	5	2	3	4					18
大矢 洋子	フロア援助				4	4	4	5	4					21
鎌滝 祐子	シーツ交換				1	4	2	3	2					12
小林 日出子	洗濯物			3	4	4	4	4	3					22
斉藤 重雄	シーツ交換				3	4	3	4	2					16
富永 紀美江	洗濯物			3	2									5
中山 玉恵	フロア・洗濯物			3	9	8	8	3	8					39
西野 小夜子	シーツ交換				4	4	3		2					13
西村 操	洗濯物			3	3									6
萩原 百合子	フロア援助				4	3	4	3	3					17
畠中 美智子	シーツ交換				3	5	3	3	2					16
橋本 敦恵	洗濯物			2	5	4	4	1	1					17
堀川 昭子	フロア援助					2	3	1						6
諸岡 聖治	洗濯物・行事			4	4	4	5	4	4					25
山澤 繁子	シーツ交換				8	6	8	12	12					46
米村 幸子	フロア援助				7	8	5	9	7					36
渡会 みね子	洗濯物			3	4	4	4	6	6					27
生活系														
大石 かつ子	事務							2	1					3
片瀬 悦寛	事務							2	3			1		6
林 俊夫	事務							2	1					3
船富 剛	事務							2	2			1		5
山口 こそ江	事務・行事							1				1		2
和田 敦子	事務・行事							1	1			1		3
合計		0	0	21	73	75	66	77	74	0	0	4	0	390

一般	9	8	40	54	108	181	61	99	11	14	9	112	706
介護サポーター	0	0	21	73	75	66	77	74	0	0	4	0	390
合計	9	8	61	126	183	247	138	173	11	14	13	112	1096

令和3年度活動計画

地域と共生する施設へ向けて

地域福祉の拠点として、なぎさ和楽苑はボランティアや地域の活動を支え、また、支えられてまいりました。地域に情報を発信するだけでなく、地域の方々との交流や関わりにより、多方面から地域の情報が集まる拠点となり、高齢者福祉施設の枠を超え、あらゆる世代、職業の方との交流も行われております。意図して創るもの、意図せずして創られるもの、各々を貴重な体験としながら、なぎさ和楽苑が地域福祉の拠点としての努力を続けてまいりたいと思います。

▶▶ ボランティア活動

1. 令和2年度の評価・反省

- ・コロナ禍により例年に比べボランティア受け入れに苦慮した年度となりました。そのような中でも感染症予防対策を講じた「新ボランティア様式」の策定、ボランティア・職員への周知、タイムリーな連絡等の調整は大きな混乱はなく、臨機応変に対応することができました。
- ・新たな取り組みとして、非接触型のボランティアプログラム(オンライン、在宅での活動等)を東京ボランティア・市民活動センターと協働する形で実践することができ、今後に繋がる新たなボランティアプログラム創出を考える上での大きな材料を得る事ができました。
- ・新規のボランティア受け入れは停滞してしまったため、改めて入居者、ボランティア双方のニーズに合ったプログラム展開を幅広い世代を対象に進めていく必要性を感じました。

2. 令和3年度の取り組み

1. ボランティア受け入れに関する施設側の体制整備

- ① **ボランティア担当職員の位置づけ、施設職員としての関わり方**
各セクションのボランティア担当職員を中心に、利用者・ボランティア双方のニーズの発見及び意見収集を行います。また、毎月行っているボランティア担当打合せにて、担当者間の共通理解、課題の早期発見・解決を図り、セクションへのタイムリーな情報提供及び調整に努めます。
- ② **ボランティアとの情報共有の強化**
個人情報の保護・守秘義務に配慮した上で、利用者の情報提供を適宜行い、利用者・ボランティア双方の安心及び安全に配慮いたします。
- ③ **職員へのボランティア教育の場を設け、ボランティア活動への理解を促す**
ボランティアと協働してきた当苑の歩みに理解を深め、施設職員としての自覚・共通理解を持ってボランティアを迎えるための研修を設け、利用者・ボランティア・施設の三者にとって、意義のある活動を模索します(新任職員研修・中堅職員研修等)。

2. 活動展開

- ① **新規ボランティアの受け入れ**
新たなボランティアの方の受け入れ推進のために、広報紙やチラシ等での紙面発行とホームページやSNSツール等の電子媒体を駆使し、積極的なボランティア募集活動に努めます。
- ② **“無理なく細く長く”活動できる個別の調整**
コロナ禍による長期的なボランティア活動中断により、ボランティアの方の中には心身ともに体調を崩す方や、これまでの活動を継続することに難しさを感じ、ボランティア活動自体をやめてしまうこと等が想定されます。できる限り“無理なく細く長く”活動を続けられるよう、ボランティアの方のニーズ把握に努め、活動内容、方法、頻度等を個別に調整します。

③ オンラインボランティアプログラムの推進

感染症予防対策から、利用者と直接関わるボランティア活動再開には時間を要することが想定されます。その際の活動方法の一つの選択肢として「オンライン」での受け入れも積極的に導入をしてまいります。利用者・ボランティア・施設の三者にとって最も有効なボランティアプログラムは何かを調整し、試行する年度と位置づけます。

④ さまざまな世代のボランティア受け入れ

学生や子育て世代といった若年層のボランティアや、65歳以上であり江戸川区の研修を受講し登録した介護サポーターの方等を積極的に受け入れることにより、幅広い世代の方々に高齢者福祉に関心を高めていただくと同時に、さまざまな世代のボランティア同士、高齢者との交流の場の提供を進めてまいります。また各世代のボランティアが継続的かつ組織的に活動していただけるような調整、工夫をします。

3. ボランティアとの繋がり強化

① 各ボランティアの状態把握・ニーズ調査

感染症予防対策により活動が制限され、一人ひとりのボランティアと直接会っての活動の聞き取りが難しくなっています。ボランティア個々の活動、生活で悩んでいること等で当苑にできることはないか等の状態把握、ニーズ調査等に注力してまいります。具体的には、こまめな電話やメール、SNSでの連絡、アンケート調査等を用いて積極的な聞き取りを行います。

② ボランティア同士、職員と繋がる機会の創出

コロナ禍による人と人の繋がり希薄化により、当苑を介して生まれていたボランティア同士、職員等といったボランティア活動を通しての横の繋がりを持つ機会が減少しています。活動中断期間や直接会えない状況下でもお互いが繋がっていることを実感することができる取り組みや情報共有に努めてまいります。具体的には定期的な広報紙の作成と送付、SNSでの情報発信を行います。

4. リスクマネジメント

① ボランティア活動に対するリスクマネジメント(ボランティア保険加入)

ボランティア活動の中で、予測されるリスクを施設・職員全体で把握し、事故を未然に防いでまいります。特に感染症予防対策については施設全体で検討し、具体的な対策を講じ、ボランティアの方々が安全かつ安心して活動ができる環境整備について努めてまいります。万一事故が起きた場合には、迅速に対応ができるように、ボランティアの方には事前に『ボランティア保険』へ加入していただくよう働きかけます。

令和3年度 ボランティア行事予定表

開催期	内容
5月期	第1回学び舎なぎさ
7月期	ボランティア活動報告書「なぎさの和」発行
8月期	夏休みボランティア体験(地域の中・高生対象)
9月期	長寿を祝う集い
11月期	介護の日
12月期	ボランティア感謝の集い(交流会形式)
1月期	第2回学び舎なぎさ

ボランティアの皆様へ

ボランティアの皆様、日頃よりなぎさ和楽苑の事業へのご理解と温かなご協力を頂き本当にありがとうございます。

昭和55年に江戸川区に移転し開設して以来、常に地域のボランティアの皆様と共に歩み続けることが、なぎさ和楽苑の大切な理念の一つであったにもかかわらず、昨年度は残念ながら、施設の内外でボランティアの皆様の元気なお姿やお声を聞くことがほとんど叶わない年となってしまいました。そして、その状況が現在もなお続いていることは非常にもどかしく、とても残念な気持ちでいっぱいです。これまで多くのボランティアの皆様に囲まれながら過ごしてきた、なぎさ和楽苑での「当たり前の日常」がいかに尊く、貴重なものであったかを思い知らされる毎日です。

「失われた日常」。これを取り戻すことは、決して容易なことではありません。今回の件では、ほとんどすべての生活場面において、これまでの「当たり前の日常」について、それが本当に正しかったのかも含め、一度立ち止まって考え、軌道修正をすることが求められたように思っています。私自身も今までの生活では、とかく前ばかりを向きがちで振り返って物事を再考する余裕が十分なかったこともあり、あらためて「立ち止まって考える」ことの大切さを教えられたような気がしています。

そこでコロナによる大きな犠牲と引き換えに、

地域の皆様に支えられ「つながり」の和から元気を頂いていた当たり前の日常、地域の皆様やご家族様のご面会で拝見する安心した笑顔で満たされた入居者の表情は職員の方たちも頑張れる原動力です。当たり前だった「つながり」が継続できない今、会いたい、触れたい、声が聞きたい、切ない思い、その願いのために職員は感染症を持ち込まない日々が続いております。

昨年と今年度の新人職員は、当苑の強みである

なぎさ和楽苑がなぜ地域のボランティアの皆様と歩む施設であるべきなのか、を立ち止まって考えてみました。答えは簡単、ボランティアの皆様は「なぎさ和楽苑の一部」であるからです。当たり前すぎる答えにすら気づけなかった自身に、思わず笑ってしまいました。

ボランティアの皆様の中にも、ご自身がなぜボランティア活動をしているのかとお考えになった方もいらっしゃるかもしれません。私たちもボランティアの皆様との関わりについて改めてさまざまなことを考えました。そういった私たちとボランティアの皆様一人ひとりのさまざまな問いに対する答えや気づき、新たな考えをひとつずつ丁寧に伺っていくことが、未来に向けたなぎさ和楽苑のボランティア活動にとっても大切だと思っています。活動再開後には、ぜひ多くの皆様のご意見をお寄せいただければと思います。

マスクが不足したときの手作りマスクや感染対策用ガウン、コロナ終息を願う手作りのお守りのご寄贈、入居者を元気づけるたくさんのお手紙や励ましのメッセージなど、数え切れないほどのご支援を頂き、なぎさ和楽苑をご自身の生活の一部だと思ってくださった多くの皆様に心より御礼申し上げますとともに、お一人おひとりと再びお会いできる日を楽しみにしています。今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

施設長代理 **平井 剛**

地域とのつながりを体感できず思い描いていた新社会人生活からかけ離れた「感染症対策」に直面しております。地域の皆様の活動を機関誌や写真、言葉で語りつつも実際のご活躍に勝るものではありません。

私たち先輩は後輩にその場を体感してもらうためのリレー役となり、次の介護の担い手が皆様と共に地域となぎさ和楽苑の発展に繋がるようお力添えをいただけますと幸いです。

生活部 介護課 介護課長 **畑井 輝樹**

当苑は昭和55年に西葛西の地で特養を開設して以降、「地域に開かれた施設」「地域と共に歩む施設」としてボランティアの皆様や地域の方々のご理解やご協力の下各事業を運営してまいりました。これまで365日、苑内ではボランティアの皆様が明るく笑顔で活動してくださり、元気を頂戴し、外出支援や行事などでは入居者の生活がより豊かになるようご尽力いただいていたかと思えます。しかし、新型コロナウイルス感染症により事態は一変し、ボランティア活動や外出支援、行事が中止されるなど未曾有事態となりました。先が見えない不安の中、ボランティアの皆様が不足していたマスクをご寄贈してくださったことが

コロナの影響によりボランティアの皆さまの活動が中断した後、地域交流スペースはこれまでの賑やかさを失い、寂しさを感じるが多くなりました。コンサート等の楽しいひとときや、共に取り組ませていただいた「なぎさ★キッチン」の“団らん”を思い起こし、苑内に掲示されている皆さまからいただいたたくさんのお手紙を拝読しては、何かお役に立てることがないだろうか、悶々としております。

この間、イベント準備、苑庭のお手入れ、衣類の繕い、贈り物の製作、オンライン活動等々…それぞれの形でボランティア活動をお続けいただいている方もいらっしゃいますが、中断されたままの方が

地域連携推進係から地域部在宅サービスに異動となり5年が経ちました。

かつてボランティアとしてお世話になった方や、ご家族様が在宅サービスを利用されることがあります。「以前ボランティアとしてお世話になった報恩をこの機会に…」とは思うものの、ボランティアとして活動されていたこと、心持ちや体調が異なる方もいらっしゃいます。当方の想いの押しつけではなく、感謝の気持ちを携えつつ、新たな関わりを持ってたらと思っております。

新型コロナウイルスが猛威を振るい、なぎさ和楽苑に溢れていた、笑顔や笑い声が影を潜めております。まるで別の施設になってしまったかのよう

ら始まり、植林剪定、入居者へのお守りのご寄贈など、苑内での活動が制限される中でも「苑のために何かできないか…」と常に考えてくださったことに心より感謝申し上げます。また、オンラインボランティアなどの新たな繋がりは、入居者はもちろん職員にとっても大きな励みとなりました。

報道ではワクチン接種をしても感染のリスクがあるといわれているため、ご高齢の入居者が安心して生活できるようになるまでまだまだ緊張の毎日ですが、コロナが終息しボランティアの皆様と再会できますことを楽しみにしております。今後ともよろしく願いいたします。

生活部 相談課 課長 **尾田めぐみ**

圧倒的に多いのではと案じております。地域の集いの場も活動が縮小し、過日ご協力をいただきました「コロナ禍における地域住民アンケート」でも、生き甲斐を欠いた不安のお声が多く届いておりました。

感染の波はまだ収まらないようですが、コロナ禍での新しい活動様式づくりや、日々の生活におけるご相談など、私たちにできる形でこれまでの感謝の気持ちをお返しできたらと存じます。くれぐれも心身ともにご自愛いただき、頑張りすぎずにいつでも頼っていただけたらうれしいです。またお会いできる日を心より待ち望んでおります。

地域部 地域福祉推進課 課長 **後藤たか子**

な感覚もあります。久しくお会いできていない方も多くいらっしゃいますが、状況が好転した際に、またお会いできることを心待ちにしております。この期間に、なぎさ和楽苑ではボランティアの皆さんの活動や関わりを改めて振り返ることができました。皆さんもご自身のことや今後のことを考える機会となったのではないのでしょうか。今後のことを考えたとき、なぎさ和楽苑のことを頭の片隅にでも思い浮かべていただけたら幸いに存じます。

今般の状況乗り越え、皆さんとの関わりが再開することを祈念しております。

地域部 居宅サービス課 課長 **遠藤信裕**

日頃、和楽苑を助けていただいております。私が和楽苑に入職してすぐに実施されたバザーにとっても感動したことを今でも鮮明に覚えています。地域の方々からご寄贈いただいた品物に値段を付け仕分けしていく作業や、当日の熱気と盛大さに衝撃を受けました。その後も何かとボランティアの方たちに支えられながら、たくさんのごことを成し遂げてきています。また食事介助、シーツ交換、ボランティア喫茶、清掃などなど日常生活の面でも助けていただいております。

このコロナ禍の感染対応で中止が続いています

新型コロナウイルス感染症による行動制限や長期的な物資の不足など、これまで経験したことがない困難な状況の中でありながら、ご利用者及び私たち職員への励ましのお手紙、手作りのお守りや布マスクを届けていただくなど、心のこもった活動にとっても感謝しております。また、「できることがあれば何でも言って」とお声掛けいただけること、心む笑顔や優しい心遣いは、みんなの心に元気と癒し、計り知れない力をもたらしてくれます。

感染源になったらという不安な気持ちに押しつ

令和2年度は地域連携推進係(ボランティア担当)として悩ましく苦しい年度でした。それはこの冊子にまとめた通り、本当に多くのボランティアの皆様からあたたかいご支援をいただいたのにも関わらず、十分なお返しができていないと強く感じていたためです。本当に感謝してもきれいな思いです。

恩返しと言えば非常におこがましい話ですが、直接お会いすることが叶わなかった分、これまでボランティアの皆様一人ひとりにお渡しすることができていなかった「ボランティア活動報告書なぎさの和」を今年度は皆様にお送りさせていただきます。ぜひ、多くの方にご覧いただきたいです。

が、何とか踏ん張っています。ボランティアの方々の偉大さを実感しています。感謝しかありません。

今後、以前の生活に戻せるとは思えないところで、私たちがどのような対策をすればボランティアの皆様の受け入れを再開できるのか日々模索しています。いつでも前向きに、当苑の良さを失わず、利用者の方たちのために頑張っていこうと思えます。ボランティアの方たちの笑顔とパワーに触れ合える日を楽しみにしております。今後もしよろしくお願いたします。

医療部 看護課 課長 奥澤由香

ぶされないよう、職員一人ひとりがソーシャルディスタンスを守り、こまめな消毒や換気に努めています。コロナ関連のニュースが途切れることなく流れ、収束の時期がまだ見えませんが、今の状態が落ち着いて、また皆様と一緒に活動できることを心から楽しみにしております。何かと不便の多い昨今ですが、ボランティアの皆様のご健康を心よりお祈りしております。

事務部 総務課 課長 阪本彰史

なかなか終息が見えず、ボランティア活動再開の目途が立ちづらい日々が続きますが、なぎさ楽苑とボランティアの皆様との繋がりは不滅です！ コロナ禍という苦しい状況下でも皆様と一緒にあれば乗り越えていけると当苑は確信しております。また、当苑が皆様のお力になれることがありましたら、いつでもご連絡ください。

ボランティア活動だけではなく、皆様の日々の生活、心の中に少しでも当苑の存在があり続けられれば幸いです。これからも末永くよろしくお願いいたします。

地域部 地域福祉推進課 地域連携推進係

釜島豪顕

令和2年度 ボランティア活動報告書

なぎさの和

発行 令和3年10月31日
発行者 社会福祉法人 東京栄和会 なぎさ楽苑
苑長 池田めぐみ

住所 東京都江戸川区西葛西 8-1-1
電話 03-3675-1201
FAX 03-3675-1203
Eメール info@tokyoeiwakai.or.jp
ホームページ http://www.tokyoeiwakai.or.jp
制作 株式会社 明光企画 (047-396-2211)

